

玉置辻の石仏に祠設置

◇実施日 9月14日(土) 曇りのち小雨

◇参加者 沖崎吉信、児嶋道夫、畑林秀味、大江加予子、畑林清子、松本吉殖、湯川一郎、乾克巳 8名

我々が活動している南奥駈道には数は多くないが、歴史のある地藏さんや石柱、道標が点在している。そのお地藏さんもお供えをしたりしているものがあれば、掃除がされていないお地藏さんもあり、その中には、長年の風雪により祠が朽ち果てているものもある。

玉岡さんが常々言っていた「古いものは残せ、歴史あるものは残せ」、この言葉を常に意識しているつもりだ。3年ほど前か如意宝珠岳近くの祠も新たしいものに造り替えた。これが完工できたのも児嶋・松本のお二人の存在があるからできたのだ。

今回、玉置辻のお地藏さんと思われる石仏に祠を設置したいと提案したら、すぐに賛同され、すぐに取りかかってくれ、あつという間に仕上げてくれた。

その現場への設置については、行事が重なったことや天候不順で遅れていたが、児嶋さんから今週末、乾さんがやって来るので9月14日(土)にやると連絡があった。

天気予報は雨の確率が高く、セメントで基礎することだったので、延ばしたらどうかと伝えるも、それなりの対応をするとの返事で、この日の実行となった。

当日、新宮から祠、ブロック、道具類を持参し、6人で出発。小森前泊の児嶋・乾さんとは8時半頃、現地集合とした。新宮組が先着したので、地藏さんを横に移し、祠の敷地となる約1m四方を平たくする。程なく二人も到着し、児嶋さんは早速木枠を造り、そこに練ったセメント、メッシュ、モルタルを重ねて、ベタ基礎を完成させた。



セメント練り



本日の作業はこれで終了

続いてその上にブロックを敷き、レベルをあわせてから祠を載せて、一応完成した。最後に「寄進 新宮山彦ぐるーぷ 令和6年9月吉日」、「制作者 児嶋道夫、松本吉殖」の銘板を取り付けた。

雨の対応をどうするのかと思いきや、祠まわりの四方に鉄パイプを立て筋ガイで固定、その上にブルーシートをかぶせ雨よけとした。パイプ・シートの撤去とブロックと祠の固定は後日、児嶋さんがやってくれることとなった。今にも降り出しそうだったが作業中に雨はなく、終了と同時にパラパラと降ってきた。

路傍の地藏さんであったが、祠に収まり喜んでいただいたようだ。

行動タイム

新宮 7:20→8:10 玉置辻 11:10→12:00 新宮